

地震防災教育

家庭の備えから

防災・減災

発行所：はやぶさ地防会
編集者：代表者 高橋 賢一
連絡先：市民活動支援センター
尾張旭市渋川町三丁目5番地7
(渋川福祉センター内)
TEL 0561-51-2878
FAX 0561-51-2879



災害への心構えや知識を身に付けさせる教育。
災害は親や先生と一緒にいる時に起こるとは限りません。いざという時、子どもたちが自主的に判断行動できる力を養うことを目指しています。自分の身を守る能力、自分で判断し行動する能力。
②地域に貢献する能力。
④安全な社会に立て直す能力。

災害が起る前
(「コラー」と起きた後「アラー」この危機管理をし、学習と体験訓練することで、集団生活をしなくてもネットに変えることが出来る。
重要視点として、日頃から体験活動をしておく。
①子供連の「アレキシア」対策。
②新生活習慣病への減少。
③ネット依存の子供達を水際で防衛。相談コーナーでも結構参加者が大勢来りました。70~80人以上は参加



▲子供連も重い10kgを担ぎました。

リテラシーの質、これは破れないしっかりした素材のものが重要です。
重要視点、
④高齢者及び障害者の体力維持の問題。今からでも遅くはない。この子点視点は必ず最初に起る来る。だから今しよう。8月、11月、12月、月と連続で「アラー」と実践と体験と学習を関係する。大人も子供も一緒に考えて活動する。かことが方向性のない市町村のまちづくり活動に活動にするのです。



▲一人では10kgは簡単には担げません。ある取がた、これからが面白い。一日御苦労様でした。また他の団体での活動が



非常持出し体験